

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2013・12 vol.447

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉



矢巾キャンパス弓道場の完成イメージ〈関連記事：P8〉

おもな内容

- 特 集 岩手医科大学附属病院の新たな感染対策の取り組み — 感染防止対策地域連携 —
医療安全管理部 感染症対策室
- 表彰の栄誉 産婦人科学講座 杉山 徹 教授と補綴・インプラント学講座 武部 純 准教授が日本学
術振興会から表彰を受けました
- トピックス 盛岡レオクラブ様から岩手医大眼球銀行に寄付金が贈呈されました
- フリーページ すこやかスポット歯学講座No16 「歯科用コーンビームCTによる検査について」
口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 助教 佐藤 仁



岩手医科大学附属病院の新たな感染対策 の取り組み ―感染防止対策地域連携―

医療安全管理部 感染症対策室

はじめに

当院では、昭和49年3月に院内感染対策委員会を設置し、院内感染予防マニュアル（昭和51年1月刊行）に基づいた対策を全国に先駆けて取り組んできました。院内感染対策を推し進める岩手医大の歴史と風土を背景に、最新のエビデンスに基づいた、常に結果を求め改善を行う感染対策の実践を目指しています。

当院の感染症対策は、独自の抗菌薬の適正使用策⁽¹⁾や感染経路別ゾーニングシステム⁽²⁾を中心とした感染対策を推進してきましたが、平成24年度から新たな感染症対策業務の枠組みとして、感染防止対策の地域連携を進めています⁽³⁾。

本稿では平成24年度診療報酬改定に伴う感染防止対策の地域連携に関する加算について述べるとともに、当院の感染防止対策地域連携活動および平成25年3月に開催された「総括合同カンファレンス」について紹介します。

- (1) 大学附属病院における新たな感染制御支援策「感染経路別ゾーニング・システム」導入の経緯と効果。環境感染誌 Vol.23(1)：2008.p58-65
- (2) 注射用抗菌薬の包括的処方管理システムの有用性。日本化学療法学会雑誌 Vol.59(3)：2011.p285-292
- (3) 岩手医科大学附属病院の新たな感染対策の取り組み。病薬いわた.Vol.37(2)：2013.p4-8

診療報酬改定に伴う地域連携に関する感染防止対策加算

平成24年4月の診療報酬改定で、地域連携に係る感染防止対策加算が一部変更となりました。今回の改定では感染症対策の充実が求められており、院内感染対策の推進が評価の対象となります。前回の医療安全対策加算とは別の評価体系に改められており、感染対策防止加算の点数が増えました。

1. 感染防止対策加算の新設

前回の診療報酬改定で、医療安全対策加算の中に含まれていた感染防止対策加算に加算1と加算2が新設されました（当院では加算1を申請）。加算1の施設は、感染対策組織が十分に機能している指導的な立場にあり、感染防止対策加算2を算定する医療機関と感染対策の連携・指導が義務付けられています。一方で、加算2は病床数が概ね300床未満の医療機関であり、加算1の施設の指導の下に感染対策を推進する必要があります。なお、感染防止対策加算1は400点（入院初日）、感染防止対策加算2では100点（入院初日）の算定が可能となりますが、この算定には、①感染対策組織体制の整備、②感染制御チーム業務の遂行、③年4回の共同カンファレンスの開催などが条件となっています。

2. 実施すべき感染制御チームの業務

- (1)感染制御チームは、1週間に1回程度、定期的に院内を巡回し、院内感染事例の把握を行うとともに、院内感染防止対策の把握・指導を行う。また、院内感染事例、院内感染の発生率に関するサーベイランス等の情報を分析、評価し、効率的な感染対策に役立てる。院内感染の増加が確認された場合には病棟ラウンドの所見及びサーベイランスデータ等を基に改善策を講じる。巡回、院内感染に関する情報を記録に残す。
- (2)感染防止対策チームは微生物学的検査を適宜利用し、抗菌薬の適正使用を推進する。バンコマイシン等の抗MRSA薬及び広域抗菌薬等の使用に際して届出制等を取り、投与量、投与期間の把握を行い、臨床上問題となると判断した場合には、投与方法の適正化を図る。
- (3)感染制御チームは院内感染対策を目的とした職員の研修を行う。また院内感染に関するマニュアルを作成し、職員がそのマニュアルを遵守していることを巡回時に確認する。

当院における感染防止対策地域連携活動の実際

1. いわて感染制御コンソーシアム（IICC）の設置

平成24年5月、当院と連携病院が主体的かつ組織的に感染制御体制を整備するとともに、相互の技術交流を通して信頼と協力関係の醸成と地域における医療関連感染の制御体制を改善し、国民の医療の安全と適正化に努める目的で、いわて感染制御コンソーシアム（IICC）を設置しました。



Cooperations Make Safer Hospitals

2. 基幹病院と連携病院

平成24年5月に感染対策地域連携推進会議を開催し、感染防止対策加算1（基幹病院）の岩手医科大学附属病院と感染防止対策加算2（連携病院）の医療法人遠山病院・医療法人日新堂八角病院・社団医療法人啓愛会孝仁病院・社団医療法人盛岡つなぎ温泉病院が連携を図ることとしました。

3. 協力体制の内容

(1)実施手段：連携病院はIICCの概念に則り、PDCAサイクル*を回すことで年間を通して感染対策の改善を図る。

※PDCAサイクルとは事業活動における生産および品質管理などの管理業務を行動理論的に進める手法の一つで、Plan（計画）、Do（実行）、Check（点検・評価）、Act（改善・処置）と展開しながら継続的に業務を改善する方法。

(2)自己評価：連携病院は、私立医科大学病院感染対策協議会発行の感染対策チェック表を用いて評価する。

(3)地域連携病院の現状確認および評価：基幹病院は、年2回程度、感染制御医師、感染管理認定看護師、感染制御専門薬剤師等が連携病院を訪問し評価する。

(4)目標設定：連携病院は、年度ごとに各連携病院に適した目標を定めて実現に努める。

(5)感染対策技術の取得・支援：連携病院は、年4回、基幹病院のカンファレンスに参加するとともに抗菌薬や耐性菌、感染対策状況を報告し、基幹病院は解析等について支援する。さらに、年度の総括として合同カンファレンスを開催する。



訪問ラウンド



合同カンファレンス

4. 活動内容

合同カンファレンス					訪問ラウンド
開催月	場 所	連携病院	内 容	連携病院	
平成24年	6月	遠山・八角	オリエンテーション	遠山・八角	
	7月	孝仁・つなぎ温泉		孝仁・つなぎ温泉	
	9月	遠山・八角	自己評価・改善助言		
	10月	孝仁・つなぎ温泉			
	11月	遠山・八角	自己評価・改善助言	遠山・八角	
	12月	孝仁・つなぎ温泉		孝仁・つなぎ温泉	
平成25年	1月	遠山・八角	評価報告と次年度の目標設定		
	2月	孝仁・つなぎ温泉			
	3月	全病院	総括合同カンファレンス		

感染防止対策地域連携 総括合同カンファレンス

平成25年3月11日(月)、岩手医科大学附属病院循環器医療センターで、感染防止対策地域連携・総括合同カンファレンスが開催されました。このカンファレンスは、1年間通して行ってきた連携病院の感染対策の成果発表会で、改善項目を明らかにして次年度の活動目標の設定することを目的としています。また、お互いの感染対策状況や改善のための工夫を共有し、より質の高い感染対策の向上を図るための「感染防止対策地域連携プログラム」です。



おわりに

平成24年度より、当院では新たな感染対策として感染防止対策地域連携に取り組んでいます。感染対策は一施設での活動では防止できないことから、感染対策の地域連携は今後も充実していかなければなりません。このような状況の中で、今回の診療報酬改定による地域連携加算が認められたことは非常にタイムリーで、ますます感染対策の地域連携の推進が図られることと思われます。今までの医療機関別々に行われていた感染対策が、相互に評価し合うことによって客観的に現状の感染対策が把握され、より効果的な感染対策へと強化されていくことが期待されます。当院の感染対策も「地域連携」をキーワードに、よりレベルの高い感染対策への飛躍につなげていければと考えています。

特集原稿は私達が担当しました

江原 茂・小野寺直人・近藤啓子・櫻井 滋・
高橋 進・三上優子・本舘健太

感染症対策に関するご相談・問い合わせがございましたら、お気軽に感染症対策室（内線3811）までご連絡ください。



● 理 事 会 報 告 ●

■10月定例（10月28日開催）

1. 教育職員の人事について

構造生物薬学講座 准教授 関 安孝（現 講師）

（発令年月日 平成26年4月1日付）

2. 放射線腫瘍学科の設置・組織規程の一部改正について

医学部に放射線腫瘍学科を新設することに伴い、組織規程を一部改正

（施行年月日 平成25年11月1日）

3. 教育職員の定員に関する規程の一部改正について

放射線腫瘍学科の新設及び学科間の均衡を図るため、教育職員の定員に関する規程を一部改正

（施行年月日 平成25年11月1日）

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金 ～皆様のご厚志により支えられています～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は24回目の御芳名紹介です。(平成25年9月1日～平成25年10月31日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等
<5,000,000円>
医療法人社団 恵仁会 (岩手県)
<御芳名のみ記載>
江渡商事株式会社 (青森県)
株式会社システムエイド (岩手県)
(受付順、敬称略)

個人等
<御芳名のみ記載>
亀井 淳 (教職員)
(敬称略)

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭陵会	477	393,772,000
在学生父母	192	170,140,000
役員・名誉教授	40	70,910,000
教職員	119	18,835,000
在学生	1	100,000
一般	124	435,542,922
合計	953	1,089,299,922

(平成25年10月31日現在)

お知らせ

個人からの寄付に係る所得税の税額控除制度導入について

本法人に対する個人からの寄付金の税制上の優遇措置は、従来「所得控除制度」が適用されていましたが、平成23年度の税制改正により、平成23年1月1日以降のご寄付に対して「税額控除制度」の適用が可能となりました。

このことにより、現在、「所得控除」と「税額控除」の2つの制度の適用が可能であり、どちらか一方の制度を寄付者の選択によりご利用いただくことになります。

なお、寄付の目的によっては本制度が適用されない場合がありますので、ご不明な点は企画調整課(TEL 019-651-5111(内線7022・7023) E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp)までお問い合わせください。

<税額控除額の算出式>

$$\left[\text{税額控除対象寄付金}(\text{※1}) - 2,000 \text{円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額}(\text{※2})$$

※1 寄付金支出額が、総所得金額等の40%に相当する金額を超える場合には、40%に相当する額が税額控除対象寄付金となります。

※2 控除対象額は、所得税額の25%を限度とします。

— 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品(写真、俳句、絵画など)、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお

寄せください。(原稿字数 500字～1,000字程度)

また、特集してほしいテーマや、各コーナー(「表彰の榮譽」「トピックス」「教職員レター」など)への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

連絡先 大学報事務局(企画部企画調整課)
内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

表彰の栄誉

産婦人科学講座 杉山 徹 教授と補綴・インプラント学講座 武部 純 准教授が 日本学術振興会から表彰を受けました



写真左から：小林医学部長、武部准教授、小川理事長、杉山教授、祖父江副学長、三浦歯学部長

本学産婦人科学講座の杉山徹教授と補綴・インプラント学講座の武部純准教授は、平成25年度科学研究費助成事業の審査委員を務め、その公平かつ公正な審査が称えられ日本学術振興会から表彰を受けました。

表彰伝達式は、11月12日(火)、理事長室において行われ、学内関係者の出席の下、小川理事長から両先生へ表彰状と記念楯が授与されました。

この表彰は、同事業の第一段審査（書面審査）において、特に模範となる審査意見を付した委員を表彰するもので、今年度は約5,300名の審査委員の中から124名が表彰されました。

田澤 豊 名誉教授が「国際臨床視覚電気生理学会 Adachi賞」と 「日本眼科医会会長賞」を受賞しました

本学名誉教授の田澤豊先生は、10月13日から17日に中国重慶で開催された第51回国際臨床視覚電気生理学会において、Adachi賞を受賞されました。この賞は、同学会への多大な貢献と視覚電気生理に関する優れた業績のある研究者に授与されるものです。先生は同学会役員を長年務められ、また昭和53年に盛岡で第16回の学会を主催されています。また、視覚生理に関する優れた多くの研究成果を国内外のジャーナルに掲載されています。このようなご業績が国際的に高く評価され、Adachi賞の受賞となりました。

また、先生は昭和50年から平成17年まで30年間にわたり本学の眼科を教授として主宰され、岩手県の眼科医療の発展に大きく貢献され、さらに国内外の多くの学会理事などを歴任されて、眼科学の発展に寄与されてきました。このような先生のご活躍に対して、日本眼科医会から日本眼科医会会長賞が授与されたことを加えてご報告いたします。

(文責：眼科学講座 町田 繁樹)



才川 眞由美 看護師・菊池 正幸 主任臨床検査技師が 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労）を受賞しました

本学附属病院看護部の才川眞由美さん(左)と中央臨床検査部(花巻温泉病院)の菊池正幸さん(右)は、平成25年度の文部科学大臣表彰(医学教育等関係業務功労)を受賞しました。

この賞は、国立、公立及び私立の大学における医学又は歯学に関する教育・研究若しくは患者さんの診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労のあった方々を表彰することにより、関係職員の士気を高揚し、医学又は歯学教育の充実向上を図ることを目的として、昭和49年から実施されています。

才川さんは昭和52年4月に、菊池さんは昭和53年4月にそれぞれ採用され、本学における医学教育・研究及び大学病院における患者さんの診療等を支える業務に長年にわたって精励し、本学医療の資質向上に貢献されています。



内科学講座循環器内科分野 伊藤 智範 准教授が 欧州心臓病学会Acute Cardiac Care 2013で優秀抄録賞を受賞しました

この度、スペインで開催されました欧州心臓病学会Acute Cardiac Care 2013 (Madrid, Spain, 2013.10.13-15) で発表させていただきました演題が、ACCA's Choice Best Abstract賞（ヨーロッパ心臓病学会 急性心臓治療協会選定優秀抄録賞）として表彰いただきました。演題名は、「Impact of the Japan Earthquake Disaster on Emergency Coronary Intervention and In-hospital Mortality in Patients with Acute Myocardial Infarction」で、東日本大震災津波発生前後の急性心筋梗塞症の治療成績を岩手県内の施設を対象に調査した内容です。震災後には、沿岸被災地区病院で急性心筋梗塞症の適切なカテーテル治療が実施できず、院内死亡率が震災発生前の3倍に上昇していたことを明らかにしました。歴史ある会場でのレセプションでも歓待され有意義な学会でした。これは、循環器内科と心血管・腎・内分泌内科の共同研究成果で、ご指導いただきました森野禎浩教授・中村元行教授に心から深謝申し上げます。また、平成24年度の医学部研究室配属実習で、データ収集に大変な努力をしてこの研究にかかわった当時4年生のメンバー（現5年生：山屋昌平さん、土屋繁一郎さん、山口尋継さん、田山耕太郎さん、太田慶介さん、松下祐さん）にも感謝いたします。



共同研究を行った伊藤准教授（右）と中島助教（左）

（文責：内科学講座循環器内科分野 伊藤 智範、中島 悟史）

補綴・インプラント学講座 武部 純 准教授が第60回アメリカ顎顔面補綴学会 (AAMP) / 第10回国際顎顔面リハビリテーション学会 (ISMR) 優秀発表賞を受賞しました



この度、平成25年10月27日から30日まで米国ニューメキシコ州にて開催された第60回アメリカ顎顔面補綴学会 (AAMP) / 第10回国際顎顔面リハビリテーション学会 (ISMR) において、ポスター発表優秀賞を受賞しました。受賞演題は「The Effects of Ionizing Radiation on Osteoblast Behavior and Mineralization Process」です。

口腔・顎顔面領域における悪性腫瘍摘出後に生じた顎骨欠損部への顎補綴装置の維持固定法として、QOLの維持・向上の面から口腔インプラントの有用性が報告されています。しかし、顎骨組織は放射線治療による影響を受けていることから、照射骨へのオッセオインテグレーション（インプラント体表面と骨組織との結合）に対する影響を考慮した臨床指針が必要と考えています。

本研究は、間葉系の骨原生細胞由来の骨芽細胞へ放射線照射を施した培養モデルを構築し、骨芽細胞分化への影響を分子細胞レベルで検討したものであり、顎顔面補綴臨床への有用な知見であると評価されました。本研究の成果は、顎口腔系を含む頭頸部領域における医歯薬学の臨床に広く貢献できるものと考えられます。（文責：補綴・インプラント学講座 武部 純）

後藤 健治 臨床検査技師長が岩手県知事表彰 （保健医療功労）を受賞しました

本学附属病院中央臨床検査部の後藤健治さんは、長年にわたり保健医療に関する団体の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、平成25年度の岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました。

後藤さんは、高度先進医療を使命とする大学病院の臨床検査部門において、効率的かつ迅速な検査体制の確立と後進の指導に尽力されるなど、本県における保健医療の発展に大きく貢献されました。また、岩手県臨床衛生検査技師会の要職を歴任され、県内における臨床検査技師の知識と技術の向上に貢献されました。



矢巾キャンパス弓道場建設工事起工式が行われました

本学は、本町キャンパスに設置されている老朽化した弓道場に替わり、矢巾キャンパスへ新たな弓道場を建設する運びとなりました。

10月25日(金)、矢巾キャンパスB敷地の建設地内において、起工式がとり行われ、本学関係者、工事関係者、建設資金に格別のご支援を賜りました時中会（弓道部OB会）を代表して湊修嗣会長が出席しました。

神職による神事では、関係者による鍬入れ、玉串奉奠などが行われ、出席者全員で工事の無事を祈願しました。

新しい弓道場は、平成25年度内の完成を予定しています。



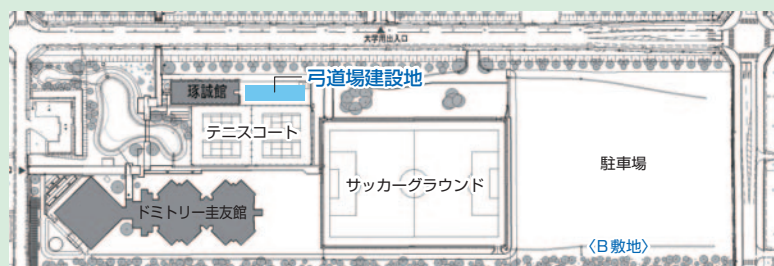
鍬入れを行う小川理事長



玉串を奉奠し、安全を祈願する湊会長

【工事概要】

- 建設地：矢巾キャンパスB敷地内（琢誠館隣）
- 整備面積：601.9㎡
- 延床面積：161.2㎡
- 予定工期：平成25年10月末～平成26年3月



第46回動物慰霊祭が行われました

第46回動物慰霊祭が、10月28日(月)矢巾キャンパス大堀記念講堂において、本学関係者約100名のほか、医・歯・薬学部の学生約300名が参列して厳かに執り行われました。

式では、昨年度実験に供された動物に対する黙祷の後、小川学長及び学生を代表して歯学部2年の東根まりいさん（右写真）から慰霊のことばが捧げられました。

続いて、参列者による献花が行われ、医・歯・薬学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に対して感謝するとともに霊の安らかならんことを祈りました。



ボイラー安全祈願祭が行われました

11月8日(金)、西病棟地下1階ボイラー室において、ボイラー安全祈願祭が行われ、本学関係者約20名が出席しました。

神官による神事では、祝詞奏上・清払いの後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

このボイラー安全祈願祭は、ボイラーデー(旧称：汽缶祭)にちなんで毎年行われているもので、鞆(ふいご)を用いる刀鍛冶などの間で、毎年11月8日になると鍛冶場を清掃し、火の神に感謝する習わしがあったことから、11月8日をボイラーデーと決めました。

なお、本学のボイラーデースローガンは、「見逃すな危険を知らせる小さなサイン」です。



玉串を奉奠し、安全を祈願する小川理事長

盛岡レオクラブ様から岩手医大眼球銀行に寄付金が贈呈されました



写真左から：眼科学講座黒坂教授、小川学長、鎌田会長、瀬川顧問

11月11日(月)、盛岡レオクラブ会長の鎌田憲武様、同顧問の瀬川勉様が来学し、本学眼球銀行(総裁：小川彰学長)に3万円の寄付をされ、小川学長から感謝状が贈呈されました。

盛岡レオクラブ様は、大学生や20代の社会人で構成される団体で、毎年盛岡市内で街頭募金活動を実施し、本学眼球銀行へご寄付をされています。

毎年いただいている寄付金は、アイバンクの啓発活動や角膜移植に使用される角膜摘出の費用などに充てられ、一人でも多くの方が光を取り戻すことが出来る様に活用されています。

ここに盛岡レオクラブ様には、心から御礼申し上げます。

「いわて産学官連携フォーラム リエゾン-I マッチングフェア2013/JST復興促進産学マッチングイベント in 盛岡」が開催されました

11月20日(水)、創立60周年記念館9階において、「いわて産学官連携フォーラム リエゾン-I マッチングフェア2013/JST復興促進産学マッチングイベント in 盛岡」が開催されました。

このイベントは、関係団体による研究成果・産学官連携成果の情報交換を通じて、地域活性化に繋がる新事業を創出することを目的として開催されたもので、行政機関、大学、企業、研究機関等の関係者約170名以上が参加しました。

多数の参加者で賑わいを見せた会場では、関係団体による講演、本学薬学部教員が参加したパネル展示・ショートプレゼンテーションなどが行われ、地域産業の活性化に向けた様々な取り組みや研究活動等が紹介されました。



祖父江副学長による講演の様子



薬剤治療学講座 青柳助教によるプレゼンテーション



職場めぐり

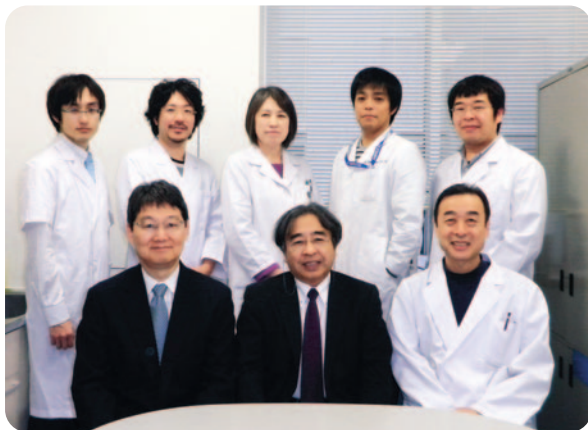
No.79



微生物学講座 (分子微生物学分野)

微生物学講座 分子微生物学分野は4名の常勤スタッフと1名の非常勤スタッフからなる基礎講座で、矢巾キャンパス西研究棟3階に位置します。

教育は主に歯学部学生への微生物学・免疫学に関する講義・実習および歯学研究科大学院生の研



究指導を担当していますが、前向きで意欲があれば来るものは拒まずという姿勢を貫いていますので、歯学部のみならず医学部の学生さんも研究室に集まってきて自主的に勉強したり研究したりしています。時として医局が満杯の状態になりますが、交流の場にもなっているようです。

研究は「口腔の疾患を駆逐すること」を最終目標に、齲蝕、歯周病といった口腔感染症の病因論研究とその臨床応用および新規予防法・治療法の開発、また口腔癌への細菌感染の関与などについて、他講座や他大学との共同研究も含め、スタッフ一丸となって活発に行っています。柔軟な思考を保ちながら、さまざまな情報とアプローチの方法を選びつつ、オリジナルであることにこだわって研究を進めることが目標です。

(教授 木村 重信)

看護部 (中央放射線部)

中央放射線部は、CT・MRI・血管造影及び治療・体外衝撃波破碎術・RI検査・マンモトーム生検を担当しています。画像検査は、全科の診断過程において重要な役割を担いますが、検査の対象患者さんは小児から高齢者と幅広く病状も様々です。個々の患者さんに適した検査が提供できるよう看護師は、知識・技術の習得に努め、検査前後の説明と日常生活のアドバイスを行い副作用や不安の軽減を図れるように援助をしております。そして放射線科医師・技師及び、全科の医師・看護師と連携し検査の注意事項、禁忌事項などを共有して検査を実施しています。

特に増加が著しいCT造影検査は、2011年総数19,651件中11,621件(59%)、2012年21,091件中11,480件(54%)あり、副作用症状に遭遇する機会がしばしばありました。なかでもアナフィラキシー症状は、稀に死亡事故になり得るため2011年

から「副作用対策シミュレーション」を反復して行ない、初発症状を見逃さず対処するために放射線科医師・技師と連携し、救命できるような体制作りをしました。そして常に患者さんが、安心して受けられる検査の提供と看護を心がけています。

(看護師 立花 佳子)



ラジオ番組・テレビ番組放送中

ラジオ
番組

「岩手医大 ～いのちから～」

- ・放送局 エフエム岩手
- ・放送日時 毎週土曜日 12:00～12:15

テレビ
番組

「健康大百科」

- ・放送局 テレビいわて
- ・放送日時 毎月最終土曜日(予定) 10:00～10:30

本法人評議員・名誉教授 柳澤 融 先生の逝去

本法人評議員・名誉教授の柳澤融殿（85才）におかれましては、11月12日（火）に逝去されました。

柳澤先生は昭和27年3月に本学医学部を卒業、本学附属病院にて実地修練後、昭和28年4月本学に採用され、昭和41年1月歯学部教授、昭和46年4月には歯学部長・岩手歯科技工士学校長に就任し、本学の発展に尽力されました。

その後昭和49年4月に医学部放射線医学講座教授に転じ、後進の育成・指導に当たると共に附属病院副院長、サイクロترونセンター長を歴任、平成8年4月に名誉教授の称号が授与されました。また、社会保険いわて健康管理センター顧問、岩手県対ガン協会いわて健康管理センター顧問等を歴任され、本県地域医療の充実に大きく貢献されました。

研究面では、放射線医学と温泉医学に関する基礎的・臨床的研究を永年に亘って続けられ、その独創的な着想が
高い評価を得ており、臨床面では、頭頸部癌や食道癌の放射線治療で大きな成果を残され、平成20年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。



第116回大学報編集委員会

日 時：平成25年12月12日（木） 午後4時～午後5時

出席委員：齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、下山 佑、山尾 寿子、

昆 由美子、佐々木 忠司、藤村 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子

編集後記

師走に入り、今年も残すところ僅かになりましたが、今年の大学報はどうだったでしょうか？編集委員一同今年を振り返り反省する点も多かったと思いますが、来年はよりブラッシュアップして行く所存です。是非皆様の幅広い意見をお聞かせ下さい。来年も皆様にとってより躍進する年であります様、編集委員一同お祈りしております。

（編集委員 佐々木 忠司）

岩手医科大学報 第447号

発行年月日 平成25年12月27日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111（内線7023）

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷（株） 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポット歯学講座 No. 16

口腔顎顔面再建学講座
歯科放射線学分野

助教 佐藤 仁



歯科用コーンビームCTによる検査について

平成20年4月に歯科用コーンビームCTという画像診断装置が歯科医療センターに導入されました。当初の検査件数は約1,000件（年）でしたが現在は約1,800件の検査を行っています。今回は歯科用コーンビームCTの紹介と、検査の実例をご紹介します。

● 歯科用コーンビームCTについて

歯科用コーンビームCT装置と検査の様子です。患者さんは椅子に座り、頭部をベルトで固定します。撮影部位の位置決めなど準備をしてから、検査終了までは約10～15分間程度です（写真1）。

撮影範囲を小さく設定することによって、エックス線被曝を通常の全身用CTより小さくでき、また解像度（画像の細やかさ）に優れているのが特徴です。また一般的なエックス線写真が二次元的（平面）であるのに対して、三次元的（立体）な観察が可能な検査です。

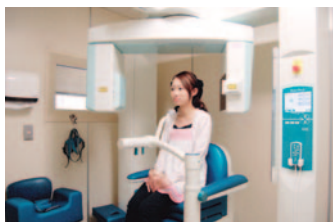


写真1 / コーンビームCTの検査の様子

● 歯科用コーンビームCT検査の実例

《症例1》

歯科インプラント（人工歯根）埋入手術前にコーンビームCTで検査を行い、プランニング後に埋入さ

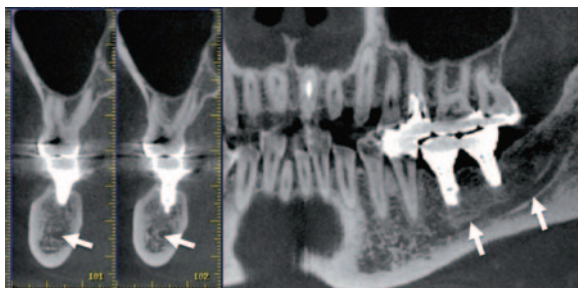


写真2 / 実際の歯科インプラント症例

れた下顎の歯科インプラントの術後の写真です。下顎管（矢印）という神経血管束から十分に離れた適切な位置に埋入されています（写真2）。

《症例2》

歯科インプラントの術前にCTでの検査が十分行われなかった時代のトラブル症例です。インプラント周囲炎のため周囲の骨吸収が認められ、下顎管に及んでいます（写真3）。痛みや神経麻痺などの症状も現れます。

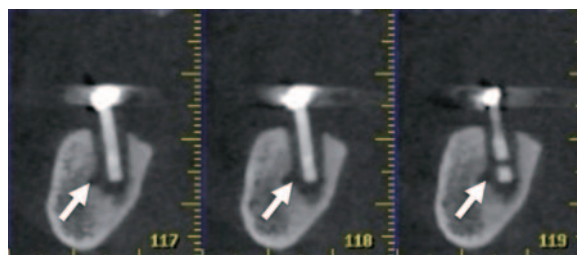


写真3 / 歯科インプラントのトラブル症例

● まとめ

歯科用コーンビームCTによる検査は、埋伏歯（親知らずなど）、唇顎口蓋裂、歯科インプラント、良性腫瘍や嚢胞などの硬組織疾患の症例が大多数です。日本口腔インプラント学会の「口腔インプラント治療指針」でもCTは安全・安心なインプラント治療においては必要な検査であるとされています。

今後は歯科用コーンビームCTの高い解像度を生かして、歯周病や歯内療法検査などへの応用も期待されます。